

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)
授業科目名：保育実習Ⅱ 英語表記：Practice ChildcareⅡ ナンバリング：2705		単位数：2単位 (10日間)実習	担当教員名：加藤房江、 浅野瞳 担当形態：複数
科目／系 列	／保育実習		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育所の役割や機能、保育の理解や認識、具体的な実践を通して学び、子どもの観察や関わりの視点を明確にして、理解を深めることができる。 2. 授業や実習を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援、保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解することができる。 3. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深めるとともに、実習における自己の課題を明確化できる。			
【授業の概要】 「保育実習Ⅰ（保育所）」で学んだ知識や技術を更に深め、保育実践力を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 保育実習Ⅱ 実習は2年次の9月に協力保育所にて10日間行う。 後半実習においては、参加型実習及び指導型実習を中心に行う。 参加型実習 保育士の補助として、保育の一部に参加したり、担当したりすることで、子どもの生活と保育士の援助や関わり、保育の展開の理解を深める。子どもの発達過程を理解し、援助や関わりを理解する。保育方針や全体的な計画に基づく指導計画と日々の保育活動との関連を理解する。環境を通して行う保育・生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する。登園・降園時における保護者との関わりを経験し、子育て支援について学ぶ。 指導型実習 配属されたクラスの全体的な計画に基づく指導計画を立案し、指導者として保育を担当する。準備・実践・省察・評価の全過程を経験し、指導者としての職務を体感・理解する。保護者に対する子育て支援や地域社会等の連携を理解し、自己の課題を明確化する。		【授業時間外の学習】 発達に合わせた保育技術を高めて、実践できるように十分準備をしておく（実習までの期間毎日2～3時間程度の時間が必要） ・目的意識・実習の課題を踏まえ、実習日誌の記入を丁寧に行い、翌日提出し指導を受ける。 ・実習担当の先生の指導を仰ぎながら、実習準備を行う。 ・年齢に合わせた、指導案の作成を行う。	

【授業の方法】 協力保育所にての実習。実習先からの評価を基に個別面談を行いフィードバックする。	
【テキスト】 『実習の手引き』 埼玉純真短期大学	
【参考書・参考資料等】 実習先にて配布されるしおりや実習の心得、楽譜等。 ・『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） ・『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版） ・『見る・考える・創り出す「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ほか 萌文書林	
【学生に対する評価】 実習園からの評価(60%)、実習日誌・事前事後指導の取り組み(40%)から総合的に評価	
【履修上の注意】 ・「 <u>保育実習指導Ⅱ</u> 」を必ず履修すること。 ・実習後、速やかに実習日誌の記入を丁寧に行い、次の日の朝には、実習園に日誌を提出すること。 ・保育士の役割を理解し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。	
実務経験の有無：有	実務経験： 加藤:元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士 浅野:元施設指導員、社会福祉士
【実務経験を生かした教育内容】 保育者としての経験を活かし、実習園からの相談等がある場合は速やかに対応を行う。	